

私と東高

後援会長 山口 森三



藤枝東高校が創立七十年を迎へ、豫てから強い要望のあった千南原会館の建築成り、合同の記念式典や行事の行われる事となり、心から御祝い申し上げます。しかも私が両式典と行事の実行委員長を仰せつかり光栄と思います。

私は昭和二十年より本校に関係し、今日まで四十数年PTA会長や後援会長を勤めさせていただいて居ります。その間困難を極めた経過を経て昭和二十九年誕生した市の市長となり、財政はマイナスであり物はなし、せめて昔から県中部の文化の中心であった尊い史実を誇りしその展開を藤枝東高に期待しました。

昭和三年の国体で昭和天皇御夫妻をお迎えして、東高グラウンドをスタンドまで先導御案内し、しかも藤枝東が優勝し志太クラブが優勝し、「サッカーのまち」が実現、これがサッカーのまちとして活躍する原動力となりました。又東高が県内の名門校として現在名をあげていることは卒業生諸氏も、全国的に活躍している先輩諸氏も本校を誇りとしていることと思っております。

私は市長在職中、卒業式など生徒や父兄の集まる会には必ず出席しました。そして人間如何に生きべきかを主題にした話をしました。それは東大で河合教授の理想主義的自由主義的人生観の教えによるものです。それぞれ時に私の話を聞いて下さった同窓の皆さんは何か感じて下さったでしょうか。

静岡新聞の「窓辺」にも「若者に長大な古典を」と題して一文を書きました。『戦争と平和』『ジャンクリストフ』、人間生長の記録があると。現在85才人生の終りに近い私ですが、人類や地球の将来を勉強中です。

終りに同窓会長、新旧PTA会長さんに心から感謝します。

70周年を迎えて

学校長 萩原 昌明



創立70周年記念式典が、「千南原会館」の落成披露を兼ねて挙行されることになりました。グラウンドを隔てて緑鮮かな松の樹々と純白の同窓会館・千南原会館を眺めると、本校の伝統に新たな1ページが加わったという感

慨がしみじみと湧いてきます。そして、卒業生の皆さんの母校に寄せる思い、地域社会の本校への期待、それに保護者たちの我が子への願いなど、さまざまな気持がほのぼのと感じられてきます。

さて、志太中学校の開校式は、大正13年9月6日に挙行されました。その日の地元紙『千年新聞』などを見ますと、開校式、開校祝賀会の盛況さに加えて、書画展覧会や煙火大会まで催されて、志太中に寄せる期待の強さがうかがわれます。そのような期待に応えるかのように、初代校長錦織兵三郎先生は、開校に当たっての抱負を述べておられます。自らの学校経営の着眼点として、第一に生徒の個性の尊重、第二に社会性の体得、第三に誠実さの涵養を挙げておられます。

それから70年を経ようとする今、本校の教育の現状をこれらの点からみてみますと、個性の尊重については相当徹底していてそれなりの効果を挙げていると思います。しかしながら、第二、第三の点については、やや欠けるところがあるかと思えます。錦織校長は特に誠実さを重視されて、「至誠一貫新興の意気を発揚すべし」とも述べておられます。

「千南原会館」が建てられて、生徒に連帯共同の責任感を体得させたり、質実剛健の気象を養ったりすることのできる集団生活の体験が可能になったことの意義は、まことに大きなものがあると思います。なお、この会館は、本校の教育活動以外にも利用が認められています。

祝 創立70周年 千南原会館落成

総合建設業



株式会社

田中組

〒426 藤枝市茶町3丁目2番1号

TEL<054>641-0274番
FAX<054>641-5556番